プラン・ニュース［2017 Autumn］NO.106

PLAN NEWS



国際ガールズ・デー特集

「Girl's Leadership ～女の子が変える未来～」

～日本の若者とネパールの女の子が社会に提言～

森星さん

ネパールの子どもや女性たちと交流

プランのコミュニティ開発

トーゴ ソコデ活動地域からの報告

発行：公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

キーパーソンに聞く

森星さん ●モデル

コミュニティの発展を願う子どもたちの絵に明るい未来を感じました

明るい笑顔とフレンドリーな“エンジェル”ぶりで、活動地域の子どもたちにも大人気のモデルの森星さん。3度目の視察はネパールへ。小学校や子どもクラブを訪れ、教育の大切さを再認識したと話します。

※聞き手はプラン・インターナショナル広報マーケティング部の後藤 亮がつとめました。

後藤 亮（以下略）ベトナム、カンボジアに続いてプラン・インターナショナルの活動地域を訪れるのは今回で3度目となりました。

森 星さん（以下敬称略）だんだん自分のなかで視察のテーマのようなものが定まってきて、ネパールでは「教育によって子どもたちの何が変化するのかを見たい」という思いで臨みました。

――その結果、どのような発見がありましたか？

森 同世代の人たちと悩みを分かち合う人生勉強という教育の場が、女の子を強くするのではないかと感じました。生理や早すぎる結婚のことを知ったり、自立することの大切さを教わったり、どうやって女性に対する差別と闘うのか話し合ったり…。国語や算数といったいわゆる学問も大切だとは思いますが、日々の悩みを共有することで子どもは学びを得るのではないでしょうか。自分自身を振り返っても、家族には話せない悩みを同世代の友人に打ち明けて、新たな選択肢が見えたりと人生が開けたことがたくさんありました。

――カンボジアに続き、職業訓練を受けた女性たちと交流しました。その中のひとりで、15歳のときに親が決めた相手と結婚し、6カ月のトレーニングを受けて今は縫製の仕事をしている女性とじっくり話す機会がありましたが、いかがでしたか？

森 過去のことを聞いても嘆くのではなく、自分の収入で子どもに教育を与えたいと未来のことを話すのが感動的でした。過去に縛られず前向きに生きている様子に心打たれたし、その根底にあるのは職業訓練という教育によって得た自信だと思いました。

――同行して印象的だったのは、小学校のお絵かきコンテストで、森さんが大興奮している様子でした。

森 そうなんです！ 子どもたちに「将来の夢」というタイトルで絵を描いてもらったら、自分ひとりの夢ではなく自分が住む村、コミュニティの理想的な姿を描く子どもたちばかりで…思わず「大人が指示したんですよね？」と疑ってしまったほど（笑）。というのも、私がもし同じお題をもらったら、パン屋になりたいとか、まず自分が輝けることを描いてしまうと思ったんです。それも悪いことではないかもしれないけれど、自分の夢以上に地域の発展を夢みた子どもたちに感動したし、見習うべきところがあるなと思いました。

――Because I am a Girl エンジェルとして、今後はどのように支援に携わっていきたいですか？

森 将来の夢の絵を見て、自分がどう輝きたいかよりもコミュニティ全体のことを考える子どもがたくさんいることに、ネパールの明るい未来を感じました。今の子どもたちが大人になったときに、どんな地域になっているのか今から楽しみで仕方ありません。今回の視察を通して、ひとつの地域を一回見て終わりではなく、長期的なお付き合いをしたいと思いました。これからも、プランがすすめている世界の女の子の現状を広めることに尽力し、できることをやりたいですね！



Profile

もり・ひかり
1992年東京生まれ。モデルとしてファッション誌やバラエティ番組で活躍中。2015年にBecause I am a Girl エンジェルに就任。イベントやSNSを通じて途上国の女の子の現状を発信している。

Photos/Mayumi Rui（NOIR）
協力：『25ans』（ハースト婦人画報社）



縫製を習う研修所で女の子たちと。就業の選択肢を広げる職業訓練は、女の子たちの自信にもつながります



視察で訪れた小学校にて。一緒にゲームをしたり、日本のおもちゃや髪飾りをプレゼントしたりして交流しました。森さんのスマートフォンで撮影を楽しむシーンも



子どもたちと、お互いの悩みや将来の夢を共有しました。「夢や将来のビジョンをもつことで、なぜ自分はこの世界にいるのかがクリアになり、毎日のハピネスのレベルが変わると思う」と、森さん



「子どもたちが、コミュニティの明るい将来を願って絵を描いているのが印象的でした」と、森さん。一つひとつの絵を丁寧に眺めていました

「国際ガールズ・デー2017イベント」に森星さんも参加！

10月7日（土）〈13時から14時15分まで〉にバーニーズ ニューヨーク 六本木店で「国際ガールズ・デー2017イベント」を開催します。森星さんとバーニーズ ニューヨーク、プラン・インターナショナルが「女の子が変える未来」をテーマにそれぞれの取り組みやメッセージを発信する予定です。

バーニーズ ニューヨーク ファッションディレクターの鈴木春さんは、「国籍や性別、年齢が夢を実現する上でハンディキャップになってはいけません。私が夢を持ち続けて働くファッションの世界や日本でも、国際ガールズ・デーの認知と理解を深めることが大切です。社会全体が女の子（＝若者）に未来を選択するチャンスを与え、平等について考えるきっかけをつくることでよいアクションが起きて、きちんとバトンを次の世代に繋げていけると信じています」とコメントしています。

また、10月3日（火）から10月11 日（水）まで、YellowKorner Showroom & Shop（IMA CONCEPT STORE 内）にて、森星さんがプランの活動地域を訪問したときの写真展を開催予定。詳しくはこちらまで。
https://www.plan-international.jp/girl/idg2017/

10月の「国際ガールズ・デー」は、女の子のリーダーシップを応援します !!

今年で6回目を迎える「国際ガールズ・デー」。日本の若者が「国際ガールズ・デー」に合わせて、「Girl's Leadership（ガールズ・リーダーシップ）～女の子が変える未来～」(提言に向けた参加型の活動)を行います。



昨年行われたネパールでの「Girl's Leadership」アクション。一日議員をつとめた女の子たちとネパールのバンダリ大統領（中央）

持続可能な開発目標（SDGs）にも含まれているジェンダー平等の達成。改善が見られる一方で、世界では指導的な立場にある女性の数が少ないのが現状です。大統領や首相など選挙で選ばれて国のリーダーをつとめる女性は17人。女性の国会議員は全体の23％程度です（※1）

女性リーダーが増えると社会が変わる

女の子や女性が抱える問題を解決するためには、当事者の意見を反映させることが必要です。また、さまざまな視点が入ることにより、よりよい解決策が生まれます。そのためにも女性リーダーの存在は大切です。

2016年の「国際ガールズ・デー」ではプラン・インターナショナルが活動する世界55カ国で300以上のアクションが実施されました。女の子や若い女性たちが大きな決定権をもつ役職に就任し、世界中の政府に女の子の権利を阻む数多くの障壁を取り除くよう訴えました。

ネパールでは、大統領や国会議員が見守るなかで、全国から集まった40人の女の子たちが一日議員として模擬議会を開催。6ページにわたる女の子の状況改善のための具体的な行動計画を作成、採択し、バンダリ大統領に手渡しました。

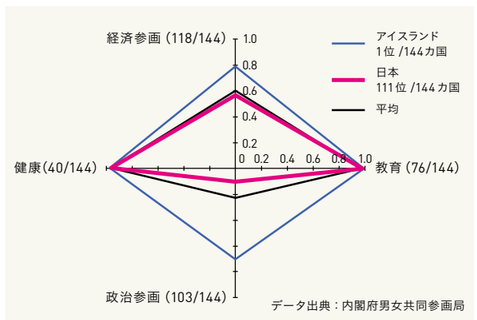
ジェンダー・ギャップ指数 日本の順位は100番台!?

2017年「国際ガールズ・デー」では日本の若者がネパールの女の子たちと「Girl's Leadership（ガールズ・リーダーシップ）～女の子が変える未来～」のアクションを一緒に起こします！

2016年の日本のジェンダー・ギャップ指数は144カ国中111位と低い順位に留まっています。主な原因は経済と政治分野での女性の進出が少ないことです。（※2）

経済分野でのアクションは、職場でのジェンダー平等と女性活躍に取り組んでいる企業、ヒルトン・グランド・バケーションズとともに、改善にむけたメッセージを発信します。また、政治分野でのアクションも現在計画中です。ご期待ください！

ジェンダー・ギャップ指数（2016） 各分野の日本の順位と比較



※1 出典：Women in 2017Map, IPU-UN WOMEN

※2 世界経済フォーラムによる男女平等の度合いを指数化したもの。労働力人口、同一労働における賃金、予想される所得、議員や管理職、専門職と技術職の5項目における男女比率をもとに割り出される



夏休み中にもかかわらず、募集人数を超える応募がありました

10月 / 11日（水） アクション！

ガールズ・リーダーシップ

「Girl's Leadership ～女の子が変える未来～」

今年は、初めて日本の若者がアクションに参加します。事前トレーニングを受けた若者が、ヒルトン・グランド・バケーションズのアジア支社と各バケーション・ギャラリーで支社長や営業所長になり、女性と男性がともに活躍できる社会に向けた提言を全国の社員の皆さん、さらには日本社会にむけて発信します。

2017年8月7日には、アクションに参加する玉川聖学院中学・高校生とプラン・ユースを対象に事前トレーニングを実施。約40人が、アクションの意義、国内のジェンダー課題について学びました。ジャーナリストの治部れんげさんとヒルトン・グランド・バケーションズの女性リーダー3人が講師として参加、ジェンダー平等やリーダーシップについてお話しくださいました。

ひと言 ヒルトン・グランド・バケーションズ人事ディレクター
講師・大場美里さん

私たちの経験を若い皆さんに伝える機会をいただきうれしいです。リーダーはチームプレーが成功するための采配を振る立場。チームの意欲を高める一方で、時には反発を受ける決定もしなければなりません。キャリアにおいては、置かれた状況でベストを尽くすことが明日を拓きます。何事にもベストを尽くして、幸せな人生を歩んで欲しいです。

2017年「国際ガールズ・デー」のアクション、イベントの進捗と報告はウェブサイトでご覧いただけます。
https://www.plan-international.jp/girl/

ネパールの女の子が来日！

日本の高校生・大学生に助言を



2016年のアクションで大統領（写真右）に面会したときのアスマさん（写真左）、ラージクマリさん（写真中央）

アクションを行う日本の若者をサポートするため、2016年にネパールで一日議員をつとめ、大統領に面会した2人の女の子が来日します。ネパールでの経験を日本で発信するほか、日本の若者に助言してくれます。

ラージクマリさん（23歳）

カムラリ（家事使用人）として9歳から3年間働いていました。「昨年大統領に会った私の経験を、日本の若者に伝えて一緒に行動したいです」



アスマさん（19歳）

2015年の地震で自宅は全壊しましたが、子どもクラブのリーダーとして活躍。「日本の若者と一緒にジェンダーについて考えるのが楽しみです」



Because I am a Girl（BIAAG）キャンペーンで実施されるプロジェクトの報告です

プロジェクトを通じて女の子や若い女性のリーダーシップ育成を応援しています

現在実施中のGirl's Projectでは、女の子や若い女性たちが、自分に自信をもち、
自分の意見を周囲に発信する力をつけることを目標のひとつにしています。
ラオスの新プロジェクトと、昨年から継続しているふたつのプロジェクトの進捗をお伝えします。

From

ラオス

女の子だって リーダーになれる！「学校でのジェンダー平等促進」プロジェクト



プロジェクトの背景

ラオスの北部ボケオ県パウドン郡は、住民の80％が少数民族で、国内でもっとも貧困率が高い地域のひとつです。男の子を優遇する風潮が根強く、学年が上がるにつれて、家計を支えるためや、早すぎる結婚や妊娠による女の子の中途退学が多くなります。「女の子や女性は男の子や男性よりも劣っている」という思い込みが根底にあると思われます。

学級委員長は男の子だけ!?

プロジェクト対象の中学校と高校の実態調査の結果、男子生徒が学級委員長に選ばれる傾向にあること、学校長は全員男性で、女性教師は会議での発言も控えめで意見が尊重されなかったり、女性教師を軽んじる男子生徒がいたりすることなどがわかりました。男子生徒の行動は、コミュニティでの女性の地位の低さや、学校での女性教師の待遇が反映されたものではないかと懸念されます。

ジェンダーは「男女分業」だけではありません

ラオスでは、ジェンダー平等というと、「ひとつの作業を男女で平等に分担する」という考えが一般的ですが、トレーニングを通じて、もっと広義なジェンダーの認識へ変えるように働きかけています。リーダーになるために性別は関係ないこと、誰でも大事な集会や会議に参加して発言できること、そして誰もが差別や暴力の被害者になってはいけないことを理解するのも、このプロジェクトの重要な活動としてすすめています。



トレーニングを受ける女性教師（写真手前）

主な活動内容

活動地域の生徒や教師など4,762人を対象に、

- トイレ・調理室つき男女別学生寮の建設（3校）
- 政府職員・教師・保護者を対象とするジェンダー研修
- ジェンダー平等のための子どもクラブの活動支援

実施中のGirl's Projectでリーダー的役割を経験した女の子からの声が届いています



貯蓄グループの活動で、生活と心境にも変化が

プロジェクト開始直後に自分が紹介された「プラン・ニュース」の記事を手に。前よりも自信に満ちた表情に



朝4時半に起きて家事と子どもの世話を済ませ、9時から市場でサンダルを販売

From

トーゴ

「若年層の女性の経済的自立」プロジェクト

CASE STORY 参加者の**エディスさん（21歳）**

「村落貯蓄貸付グループに参加して、毎週少しずつ貯蓄をしています。サンダルを売って生計を立てていますが、繁忙期の新年にはグループから借りたお金で在庫を増やし、より多くの利益をあげることができました。この利益で食料や衣服を買い、生活の改善に役立てています。

また、私はグループで書記もつとめました。初めてグループの役職に就いたことで、人前で話すことが恥ずかしくなくなり、家庭や村でも自分の意見を言えるようになりました。今ならグループのリーダーにもなれると思いますし、自分のお店を持つという夢も叶えられると思います」

● プロジェクトの概要
女性の発言権が弱いトーゴの貧困地域で、職業訓練や村落貯蓄貸付グループの設置を通じて、女性の経済的自立を支援します。



不安を乗り越えて、信頼の厚いリーダーに！



“ボーイズ・フォー・チェンジクラブ”では女の子と男の子がいろいろな活動に一緒に参加 しています

From

ルワンダ

「差別をなくすジェンダー教育」プロジェクト

CASE STORY 参加者の**マーサさん（15歳）**

「私は、女の子と男の子が一緒にジェンダー平等に取り組む“ボーイズ・フォー・チェンジクラブ”のリーダーになりました。クラブでは誰もが自由に自分の意見が言えますし、女の子だからといって発言を控える必要もありません。

この地域では女の子のリーダーが珍しいので、最初は、とても不安でした。他の生徒たちや大人たちにどう思われるか不安もあったし、リーダーの責任も負担に感じました。

でも、リーダーシップをはじめとするいろんなトレーニングに参加することで、自分に自信がもてるようになりました。私がリーダーになっても、私をいじめる男の子はいません。クラブのみんながリーダーの私を信頼し、支えてくれます」

● プロジェクトの概要
「暴力は男らしさ」という考えが根強いルワンダで、学校施設の改善や男の子も交えた啓発グループ、“ボーイズ・フォー・チェンジ”の活動を通じて、女の子が安心して学べる学校をつくります。

ご支援をお待ちしております！

Girl's Projectのご支援は、継続／都度のどちらでもお申し込みいただけます。
ご支援の詳細については、こちらをご覧ください。
https://www.plan-international.jp/join/priority/

～トーゴ・ソコデの場合～

長期的な支援が子どもも女性も等しく大切にされる環境や自立意識を育む

皆さまのご支援のもと、プラン・スポンサーシップの活動が
地域にどのような効果をもたらしているのかをリポート。
ひとつの地域にさまざまなプロジェクトを同時に進行させ、多方面から地域が抱える問題にアプローチすることで、確実な解決を目指します。第5回は、
西アフリカのトーゴ・ソコデの様子を、プラン職員の現地報告とともにお届けします。



赤い土と茅葺屋根の住宅が印象的なソコデの村

Change.2

地域のために自ら率先して取り組む姿勢が育つ

個々の世帯の生活改善だけでなく、コミュニティ全体をよくしていきたい、そのために積極的に貢献していこうという意識が住民に芽生えていました。例えば、この村の中学校は、以前は住民自身が建てた壁もない藁葺きの掘立小屋でした。数年前に建設計画ができ、年間予算では不足するため、3年間かけて建設することになりました。それに対して、住民たち自らが資材や資金を提供し、たった1年で完成までこぎつけたのです。また、「母親クラブ」と「子どもクラブ」が設置され、メンバーは子どもに対する暴力の撲滅や人身売買の予防と告発に関する取り組みを行っています。





以前学校として使われていた掘立小屋（上）は、住民の貢献により1年で立派な学校（下）に

トーゴ・ソコデはこんなところ



西アフリカに位置する細長いトーゴの、ちょうど真ん中に位置するのがソコデ。主な産業はカカオやコーヒーの栽培です。プランはこの地域の6つの県にまたがる、73の郡の845の村で活動しています。今回訪問したのは、人口約3,000人のクパスワデ村。ここでは1994年から20年以上にわたり、村の人々とともにプラン・スポンサーシップを通じた地域開発に取り組んでいます。

数字のChangeもチェック！

- 小学校の純就学率が85％に改善（2010-2011年）
  ※全国平均は86%
- 安全な水へのアクセスが60%に改善（2011年）
  ※全国平均は43%
- 出生登録率が97%に増加（2016年）
  ※全国平均は78％
- 早すぎる妊娠が5例にまで減少（2016年）
  ※数年前には28例

Change.1

老若男女問わず皆が大事にされる地域に

プランの長い年月の取り組みを通して、村には「子どもであろうが女性であろうが皆等しく人として敬意をもって接しよう」という文化が浸透していました。「昔は公の場での集まりには、男性だけが参加して物事を決めていました。でも今では、私たち女性も子どもたちも、ちゃんと集まりに参加して、自分の意見を臆せず積極的に話します。そして、男の人たちもそれをちゃんと聞いてくれます」と、村で出会った女性は話しました。

「母親クラブ」のメンバーの声

「以前この村では、学校に行こうが行くまいがどこで遊ぼうが、子どもたちをほったらかしにしていました。でも今は、子どもをしっかり注意して見ています。そうしたら、学校に子どもを行かせない親も学校をやめる子も、早すぎる妊娠をする子もいなくなりました」



「母親クラブ」で自分の意見を堂々と発言する女性



「大人は私たちの声を聞いてくれます」と話してくれたレアナさん（左）とラフィエトゥさん（右）

チャイルドに会ってきました！

馬野裕朗職員 プログラム部、横山秀 職員 広報マーケティング部

トーゴ・ソコデには、プランのふたりの職員が調査に行き、13歳から16歳のチャイルド計4人に直接話を聞くことができました。
子どもたちの声や、調査を通して実感した地域の変化や課題をリポートします。

学校をやめる子どもが減少

今回の視察で、16歳の女の子レアナさんの声が特に印象に残っています。恥ずかしそうに、でも誇らしく、次のように話してくれました。「私は子どもクラブのメンバーとして性と生殖に関する健康のことや子どもの保護、子どもの人身売買についてと、それを見つけたら警察に告発することを学びました。それ以来、子どもに暴力を振るってはダメです、早すぎる結婚や妊娠をしないでしっかり学校で勉強しましょう、と訴えています。結果、妊娠して学校をやめる友だちはいなくなりました。子どもに暴力をふるったり人身売買をする大人もいなくなりました」。

また、チャイルド全員が「家事は女の子だけでなく兄弟姉妹みんなで分担しています。お母さんからちゃんとみんなで分担しましょう、と言われました。みんなでやるから嫌じゃないです」と答えていたのも地域の大きな変化だと感じました。

行政へのアプローチも必要

子どもたちの声を聞いて、プラン・スポンサーシップによる長期的な支援は、「老若男女問わず一人ひとりを尊重するスピリットを浸透させる」、「自らの力で自らを助く意識を醸成する」などの、一朝一夕ではできない課題にじっくりと取り組むアプローチであることを再認識しました。

しかし、課題も残されています。住民が主体性を発揮し努力をしたとしても、それには限界があるのです。たとえば、プランが活動する4割の村では、いまだに安全な水へのアクセスが確保されていません。給水施設の整備など大きなコストがかかる取り組みは、住民の自助努力に頼るばかりでは限界があり、行政も動く必要があります。けれども、能力や予算が不足しているため、行政が住民の努力を補完できず、結果、改善がすすまないのです。プランは行政へのサポートを含め、地域の真の自立支援に向けて取り組みを続けていきます。



村の集会で啓発活動をする子どもたち



村の子どもたちは緊張しながらもふたりを温かく迎えてくれました



村の集会で挨拶をする馬野職員（右）。約200人が集まりました



ペダルを踏んで水を汲みあげる井戸の説明を受ける、横山職員（左）

●プラン・スポンサーシップのお申し込みはこちらまで　http://www.plan-international.jp/join/sponsor/

一人ひとりに必要な支援を、必要な場所で

プラン・インターナショナルが取り組んできた児童労働のプロジェクトと、今夏に職員が現場で直接関わった九州とスリランカの豪雨災害への緊急支援活動についてお伝えします。



正規の学校へ復学・編入ができるように教育支援を受ける子どもたち

インド

目に見えにくい搾取や虐待「児童労働をなくす地域づくり」プロジェクト

リポーター／曽我建太職員（プログラム部）

南アジアで最大の児童労働人口を抱えているインド

児童労働は、国際条約で禁止されているだけでなく、ほとんどの国が法律で禁止しています。しかし、今なお1億6,800万人もの子どもが働き、そのうちの8,500万人が「最悪な形態の労働」※1に従事しています。地域別に見ると、アジア太平洋地域が7,800万人ともっとも多く、それにサハラ以南アフリカの5,900万人が続きます。インドでは約580万人の子どもたちが児童労働に従事させられているという統計があります。※2

特に、個人の家庭で働く家事使用人は、人目につきにくいことから、虐待や搾取の対象になりやすいのが大きな問題です。3年間も政府の役人の家で家事使用人として働かされ、プランに保護された女の子のひとりは、「家の中に閉じこめられ、奴隷のように働かされていた」と語りました。

解決にむけたプランの活動

プランは特に問題が深刻なアンドラ・プラディシュ州とオディシャ州で10年以上、活動してきました。今は、働く子どもたちが正規の学校へ復学・編入ができるように、教育支援を行っています。また、家庭の貧困が児童労働の大きな要因のひとつになっていることから、保護者に対する生計向上支援にも力を入れています。さらに、意識啓発活動への取り組みを続け、コミュニティで児童労働を予防・早期発見する体制の構築を通じて、児童労働のない地域づくりに取り組んでいます。

皆さんのご支援が、ひとりでも多くの子どもたちが教育を受けられる世界をつくることにつながります。どうぞよろしくお願いします。

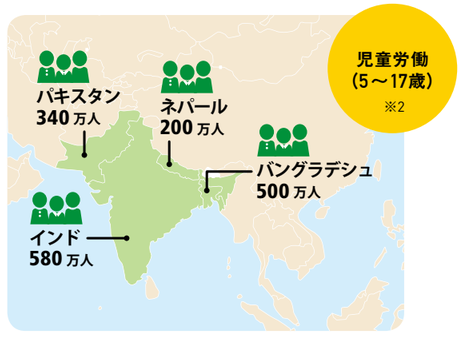


保護された子どもの話を聞くチャイルドプロテクション委員会のメンバー

●主な活動内容

約7,200人の子どもたちを対象に

- 児童労働に従事している子どもの救出・保護
- 復学支援
- 家族の生計向上支援
- 意識啓発活動とアドボカシー



ご支援をお待ちしております

プロジェクトの詳細・支援方法についてはこちらでご覧いただけます。
https://www.plan-international.jp/join/monthly/
同封チラシもあわせてご覧ください。

※1　強制労働、債務労働、人身売買、売春など、特に搾取的な労働のこと
※2　出典：Marking progress against child labour - Global estimates and trends 2000-2012, 2013　ILO

九州北部豪雨緊急支援

地域の人々とともに、避難所の運営をサポートしました

リポーター／楠祐子職員（プログラム部）

2017年7月5日、記録的な集中豪雨により九州北部地域で大規模な土砂崩れや洪水が発生、子どもや高齢者を含む多くの住民が避難を余儀なくされました。

プランは、臨床心理士有志を中心とした支援グループ、「Project九州」と連携して、もっとも被害が大きかった地域のひとつ、福岡県朝倉市を中心に、ニーズ調査と避難所（4カ所）での生活物資の支給、「子どもひろば」の設置（3カ所）を行いました。ひとりでも多くの避難者ができるだけ早く元の生活に戻れるよう、行政との橋渡しなどを行ったほか、避難所運営の支援などを行いました。

私がいちばん印象に残っているのは、ある避難所のミーティングでのこと。リーダーの自治会長が、「私たちは自立しなければならない」と言ったとき、自治会長を中心にみんなが一丸となってこの危機を乗り越え、お互いを支え合おうという空気が自然に流れました。人々がもつ真の「レジリエンス（回復力）」の一端を見た思いがしました。



「子どもひろば」で一緒に遊ぶ楠職員(中央)

●主な活動内容

約550人の子どもと大人を対象に

- 衛生用品などの支援物資の支給
- 「子どもひろば」の設置・運営
- 避難所運営の側面支援
- 災害時の子どものケアに関する保護者相談会

スリランカ洪水緊急支援

家を失った子どもたちに学用品を届けました

リポーター／橘祐子職員（プログラム部）

2017年5月下旬、スリランカで発生した洪水と土砂崩れは、200人以上の死者を出しました。私は緊急支援プロジェクトの形成に携わり、ジャパン・プラットフォームの助成を受けて現場へ。被災地で3,200人の子どもたちに学用品や靴を支給したほか、心のケアや学校トイレ・給水設備の修繕にも取り組みました。家族を亡くしたり、家を失ったりした子どもたちの心の傷は、簡単には癒えません。それでも、「自分を応援している人たちがいる」というメッセージが子どもたちに届いたことを心から願っています。



学用品セットの入ったバッグを手渡す橘職員(右)

参加者の声

ヴィミクティさん（14歳）

僕の家は、洪水で屋根まで水に浸かってしまいました。まず近所の人たちを助けて、それから自分の家に戻ったので、ほとんど何も持ち出せませんでした。本も教科書もノートもすべて失いました。学用品セットを受け取って、本当にうれしいです。

ほかの支援者と一緒ならより大きな支援ができる

笠原道子さん／中川茂人さん

今回ご紹介するのは、複数の個人が「一口100万円で参加」するプラン特別プロジェクト。見知らぬ人同士がグループとなり、ひとつのプロジェクトを支援することの意義やメリット等について、「ラオスにおける給水設備および衛生設備設置プロジェクト」に参加してくださった笠原道子さん、中川茂人さんにうかがいました。



子どもたちはきれな水で
手洗いができるようになりました！

支援プロジェクトの成果を実感しました！

2016年3月～2017年6月に実施されたこのプロジェクトでは、ラオス・サラワン県の3つの村で、給水設備の設置やトイレの改善などを実施しました。参加してくださった支援者は計12人。そのうち、今回お話をうかがった笠原道子さんは過去にラオスを訪れた経験などから、中川茂人さんはプラン・スポンサーシップ支援を通じて現地のチャイルドと交流してきたことなどから、参加を決めてくださいました。

知らない人同士がグループで支援を行うことに関しておふたりは、「プロジェクトの趣旨に賛同してくださる方々がいて、目標額に到達できることが重要」（笠原さん）、「複数の支援者と一緒に支援することで、より大きなプロジェクトに参加することができ、より大きな成果を実感できたのがよかった」（中川さん）と、それぞれメリットを感じてくださっているようでした。

また、現地の完成式典に参加した笠原さんは、「村の皆さんが心から喜んでいることが伝わってきました。実際に現地に足を運んでみて本当によかったです。給水設備やトイレの設置という具体的な形で、多少なりとも地域に貢献できたことをうれしく思っています」と語ってくださいました。

一方、現地に行かれなかった中川さんは？「今回は実際には会えませんでしたが、プロジェクトを通じて現地の子どもたち、親御さんたち、先生方、行政の人々、プランの現地スタッフなど、色々な人とつながれるのもプラン特別プロジェクトの醍醐味。私は周囲の人たちに、『ラオスにひ孫が100人できた』と伝えています」





（上）ナトール村の完成式典に出席した笠原道子さん（中央）
（下）以前、ラオスにチャイルドを訪問したときの中川茂人さん（右）

一口100万円で参加！プラン特別プロジェクトQ&A

一口100万円で参加！プラン特別プロジェクトとは？
A：ひとつの大きなプロジェクトを、個人や企業で共同支援していただくものです。その名のとおり、一口100万円からご支援いただけます。

どんな特長がある？
A：金額的にひとりでは難しい大きなプロジェクトをご支援いただくことで、対象地域により大きな変化をもたらすことができます。

ほかの支援方法との違いは？
A：個別の提案書と報告書をお送りするほか、プロジェクトの成果物に支援者の名前入り記念プレートを設置することができます。またプロジェクトの完了に合わせ、落成式などの記念イベントにご参加いただくこともできます（渡航にかかわる実費は、支援者のご負担となります）。

これまでどんな人が参加していますか？
A：個人・グループ・企業など、延べ80人以上の方々が参加されています。「人生の節目の記念に」「仕事で関わった国に恩返しがしたい」「チャイルドが住む国を応援したい」「自社の事業所がある国で成果が見える活動をしたい」など、それぞれの思いをもとにプロジェクトを支援されています。

税控除の対象になりますか？
A：所得税、法人税、相続税などの税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

● 一口100万円で参加！プラン特別プロジェクトは現在、ネパールにおける「女の子の自立支援プロジェクト」への支援を募集しています。詳しくは同封のチラシをご覧ください。また次回募集につきましては、2018年4月に送付予定の「プラン・ニュースNo. 107」の同封チラシでお知らせします。ご意見・ご要望は、お気軽に担当までお寄せください。
寄付受付・企業連携担当 TEL: 03-5481-7100 ／ Mail: hello@plan-international.jp

現地報告 **ネパール** 「女性への暴力撲滅・保護」プロジェクト

困難な状況にある女性たちの問題に取り組む現場スタッフの強い気持ちに心打たれました

From Nepal

澤柳孝浩職員（プログラム部）

2017年5月、プロジェクト視察のために初めてネパールを訪問しました。今まではあまり馴染みがなかった国ですが、いっぺんで大好きな国になりました。カトマンズから飛行機で約2時間、プロジェクトを実施しているバルディア郡は、タライ平原に位置し、見渡す限りの畑が広がり、残雪の山並みといったネパールのイメージが払拭される暑さでした。「ナマステ」とネパール語で挨拶してくれるプロジェクト関係者たちは、とても親切で穏やかな人たちばかり。こんな穏やかな人たちが多く住むこの地で、性暴力や家庭内暴力が頻発していることに改めて驚きました。



ジェンダーに基づく暴力防止について啓発する現地スタッフ

プロジェクトが目指すのは、性暴力や家庭内暴力といったジェンダーに基づく暴力がない地域づくりです。そのためには、女性人権擁護スタッフの協力が欠かせません。彼女たちは、日々女性たちが動物同然に扱われていることに憤りを感じています。自ら性暴力を受けたことがあると告白してくれたスタッフもいました。彼女たちの地域を変えたいという気持ちは切実です。女性である限り、身のまわりにいつも暴力を受ける不安があることを知っているからです。だからこそ連帯して、女性のために働きたいと言っていました。そうした現場関係者たちが円滑に活動できるようサポートするのが私の役目だと気持ちを新たにしました。



ジェンダーに基づく暴力を担当する警察官と面談する澤柳職員（左）



みんなで記念撮影

ユース活動報告

プランのユースが大集合！

2017年6月17日、世田谷ものづくり学校にて、ユース・オリエンテーションを行いました。プランの活動を同世代に広める活動をするG-SChooLと、事務局の事業計画にユースの視点でアドバイスするユース・アドバイザリー・パネル（YAP）が集結。今後1年間の活動計画を共有し、お互いの活動を知ることで、ユース同士の交流が深まりました。今後ユース同士で連携し、ユースならではのパワーを生かしてさまざまな方面で活動していきます。

業務報告 **東京** 広報マーケティング部

開発教育の一環として学校や事務局で授業をしています

From Tokyo

内山雄太職員（広報マーケティング部）



事務局で授業をする内山職員（右）

開発教育を担当するようになって2年がたちました。2017年度の1年間だけで、中学校、高校、大学、PTA、その他の団体から6,700人以上が、プラン・インターナショナル職員による出張授業や事務局での授業に参加してくれました。2020年の東京オリンピック・パラリンピックが控えていることから、最近は多くの学校が国際理解を推進したり、グローバル人材育成に取り組む傾向にあり、そうした学校からの授業依頼も増えています。熱心な生徒たちが非常に専門的な質問をすることもあり、私も驚くことがあります。

途上国への理解を深めて、ぜひ女の子の権利保護のために、プランの活動を応援してくださる学校がこれからも増えるとうれしいです。

● プランでは講師派遣や事務局への訪問受け入れを行っています。また教材の配布や貸し出しも行っています。授業や教材配布などについてのお問い合わせ、お申し込みについては、こちらのウェブサイトをご覧ください。https://www.plan-international.jp/school/

あなたも参加しませんか?

プラン支援者の会からイベント開催のお知らせ

プラン広島の会 f

❶お手紙書き会 in まちづくり市民交流フェスタ（ブース出展）
- 日時：10月14日(土)～15日(日)
- 会場：広島市まちづくり市民交流プラザ内ブース／広島市中区袋町6-36

❷「お手紙書き会」（毎月開催）
- 日時：11月18日(土)、12月16日(土) 14時～16時
- 会場：広島市まちづくり市民交流プラザ フリースペース(2Fまたは3F)／広島市中区袋町6-36

❶❷共通
- 内容：チャイルドへの手紙書き
- 参加費：無料、事前申込不要
- 連絡先：小村 Mail: naokomura@kej.biglobe.ne.jp

プラン名古屋の会 W f

「国際交流フェスティバル“ワールド・コラボ・フェスタ2017”」に今年も参加します！
- 日時：10月14日(土)～15日(日) 10時～18時
- 会場：オアシス21「銀河の広場」一般ブース13番 （ワールドステージ前）／名古屋市東区東桜一丁目11-1
- 内容：プラン・インターナショナルの紹介や資料配付をします。お気軽にお立ち寄りください。たくさんの方の来場をお待ちしております。なお、両日とも終了後、懇親会(夕食会)があります。どなたでも参加自由です。ぜひおいでください
- 入場料：無料

※当日スタッフ募集：資料配布等のお手伝いしてくださる方(時間は応相談)を募集しています。下記までメールまたはお電話ください。初めての方でも大丈夫！まずは、お問い合わせください。
- 連絡先：プラン名古屋の会 Mail：info@plan-nagoya.sakura.ne.jp http://plan-nagoya.sakura.ne.jp TEL：090-8076-2278(安藤良一)

プラン千葉 W f

「秋の例会」
- 日時：10月15日(日) 13時～16時予定
- 会場：千葉市民会館　会議室 (http://www.f-cp.jp/shimin.html)
- 内容：チャイルドへの手紙書き、ほか
- 参加費：プラン千葉の会員は無料、非会員はひとり500円
- 定員：先着30名

※参加ご希望の方は、10月13日(金)までに下記へご連絡ください
- 連絡先：前田 Mail：e_maeda@yellow.plala.or.jp

プラン博多

「地球市民どんたく」に参加します！！
- 日時：10月22日(日)　10時～16時
- 会場：天神中央公園
- 内容：国際協力・交流への関心・理解を深めてもらう事を目的に開催している「地球市民どんたく」へ参加。スタンプラリーや水汲み体験など、楽しい体験ブースを企画中です
- 参加費：無料
- 連絡先：松尾 Mail：planhakata2017@gmail.com

プラン・長崎ペアレントの会 W f

「プラン・長崎ペアレントの会　秋の集い」
- 日時：10月22日(日)　11時～14時
- 会場：長崎県出島交流会館4階　県民ボランティアセンター活動支援センター／出島町2-11
- 内容：プランの棚田専務理事のお話と、昼食(弁当)を一緒にいただきながら楽しく懇談しましょう
- 参加費：長崎の会会員は無料、非会員はひとり500円(弁当代)
- 連絡先：深堀 Mail：plan.nagasaki@hotmail.co.jp

山形・秋田プランの会

「第29回山形・秋田プランの会」
- 日時：11月5日(日) 13時～16時30分
- 会場：秋田中央市民サービスセンター

※愛称センタース(予定)／秋田市山王1-1-1　秋田市役所内
- 内容：プラン職員の講演、チャイルドへの手紙書き、参加者同士の交流
- 参加費：500円

※11月1日(水)までに下記へお申し込みください
- 連絡先：岩谷 Mail：tadaya-i@chive.ocn.ne.jp

プラン群馬の会

「秋の例会」
- 日時：11月12日(日) 13時30分～16時
- 会場：総合教育プラザ第三コミュニティセンター／前橋市岩神町3-1-1
- 内容：プラン職員の方からの報告。恒例の秋の会を開催します。会終了後、茶話会もあります。初めての方、ぜひ一度参加してみませんか
- 参加費：300円

※参加ご希望の方は、11月9日(木)までに下記へご連絡ください
- 連絡先：星野 Mail：kaoru_hoshino@hotmail.com

PLAN サポーターズ@ EZO

「北海道国際協力フェスタ2017」出展
- 日時：12月16日(土) 11時～17時
- 会場：チカホ(札幌駅前通地下広場) 北3条交差点広場
- 内容：ピンクコーデのブースで昨年大好評だったチャリティーネイル(Because I am a Girlオリジナルデザイン)を今年も実施します。当日スタッフ募集中！ 来場大歓迎！
- 連絡先：松澤 Mail：namaskar@jcom.home.ne.jp

W ウェブサイト f フェイスブック
上記アイコンのある会については、以下のプラン・インターナショナルウェブサイトから、各会のページにリンクできます
https://www.plan-international.jp/supporter/plankai/
■支援者の会に関するお問い合わせ先：プログラム部　TEL：03-5481-6100

※「プラン・ニュース」No. 107は、2018年4月上旬にお届け予定です

「マイ・プラン・ページ」に新しいメニューが加わりました！



ウェブサイトの「マイ・プラン・ページ」

プラン・インターナショナルのウェブサイト内にご用意している「マイ・プラン・ページ」。これは、支援者の皆さまに現地での活動を身近に感じていただき、支援についてより深く理解していただくための支援者限定サービスです。現地の子どもたちから届いた動画や、スタッフの裏話、支援者の方のコミュニティ訪問体験談など、ここでしかご覧いただけないコンテンツもご提供しています。

このたび、マイ・プラン・ページに新たなメニューが加わりました。新メニュー「あなたのチャイルド」では、以下の機能をご利用いただけます。
- プラン・スポンサーシップを通じてご交流いただいているチャイルドの名前や国、チャイルド番号などの情報を、オンラインで確認することができます。
- 今年の「一年の歩み」のお届け後からは、チャイルドの最新写真と最新情報が追加表示されます。

〈マイ・プラン・ページでは、以下の機能もご利用いただけます〉
1. 登録情報の変更(住所、氏名、メールアドレスなど)
2. 現在のご支援内容や寄付月額の確認(継続寄付の方のみ)
3. マイ・プラン・ページ限定公開の動画の閲覧
4. 「スタッフ通信」や「支援者の声」など、限定記事の閲覧(バックナンバーも閲覧可能)
5. 都度寄付や緊急支援など追加のご寄付

このほか、ログイン後に「チャイルドへの手紙」フォームへすすむと、スポンサー番号とチャイルド番号が自動表示されるため、番号をあらかじめ準備しておく手間が省けるなど、今後もさらに内容を充実していく予定です。ぜひ、マイ・プラン・ページをご活用ください。

※マイ・プラン・ページのアカウント取得には、別途手続きが必要です。ご利用を希望される方は、こちらからお申し込みください。
ウェブサイト：https://www.plan-international.jp/supporter/mpp/


「あなたのチャイルド」のページ。チャイルドの情報をいつでも確認できます

領収証明書のお届けは2018年1月です ～確定申告による還付金は最大4割！～

皆さまの寄付金は、確定申告により税法上の優遇措置を受けることができます。「所得控除」または「税額控除」のいずれか有利な方式を選択し、寄付金控除を受けることができます。

2017年1月1日～12月31日に受領したご寄付の領収証明書は、2018年1月下旬にお届けします。今回から、はがきではなく封書でお送りします。紛失による再発行はできませんので、申告時まで大切に保管してください。なお、以下の点にもご注意ください。
- 今回発行分より領収証明書の名義を変更される方は、2017年12月20日(水)までに書面(メール・FAX)またはお電話にてお知らせください。
- クレジットカードやコンビニ決済でのご寄付は、決済日ではなくカード会社・決済代行会社からプラン・インターナショナルへ入金された日が受領日となります。12月のクレジットカード・コンビニ決済によるご寄付は、2017年分の領収証明書に含まれません。
- 寄付金控除は、年末調整で行うことはできません。
- 一部の自治体においては、個人住民税の寄付金控除の対象となる場合もございます。詳しくはお住まいの都道府県や市区町村にお問い合わせください。

【ご連絡・お問い合わせ先】
寄付金管理担当
TEL：03-5481-6100(平日9時～17時30分)
FAX：03-5481-6200
Mail：service@plan-international.jp

プランへの寄付となるイベントのご紹介

「Women in JAZZ ～世界の女の子に、生きていく力を。～」

プラン・インターナショナルのBecause I am a Girlキャンペーンに賛同し、株式会社ギャンビットは2010年より毎年、コンサート「Women in Jazz」を開催しています。来場者には、女性ジャズアーティストたちのパフォーマンスを楽しみながら、ライブの合間に流れる動画で途上国の女の子たちの現状を知る機会となっています。チケット代金の一部および会場に設置された募金箱からのご寄付は、プランのGirl's Projectに充てられます。

今年で第8回となる「Women in Jazz」は、10月28日(土)に開催されます。詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。
http://women-in-jazz.net/


昨年の Women in Jazz コンサートより

コミュニティ訪問に行ってきました！

EGYPT
エジプト

衝撃の事実発覚から意外な展開へ！ドラマチックな訪問となりました。

2004年からプラン・スポンサーシップでの交流を続けてくださっている日笠幸代さん。4人目のチャイルドとして希望したのは、自身が初めて暮らした外国であるエジプトの女の子でした。彼女に会うため、初めてのコミュニティ訪問を計画した日笠さんを待ち受けていた意外な展開とは？



スポンサー：日笠幸代さん／東京都
チャイルド：イーマンさん（女の子／訪問時17歳）、
アシュナットちゃん（女の子／訪問時0歳）

20代の頃に夫の駐在でカイロに3年間暮らし、エジプトが大好きになりました。当時、現地の貧しい子どもたちの状況を目の当たりにしたことなどがきっかけで、日本に帰国後、途上国の子どもたちのために何かしたいと始めたのが、プラン・スポンサーシップ支援でした。

最初の頃は「ご縁を大切に」と思い、チャイルドの国や性別は事務局にお任せしていました。でも次第に「遠くて大好きな国」への気持ちが強くなり、2013年、初めてエジプトの女の子を希望。こうしてイーマンとの交流が始まりました。

今年はそのイーマンがプランを卒業する年。しかも、2015年から単身赴任で二度目のカイロ駐在をしていた夫の帰国が間もなくとなり、さらに昨年、親を見送るという人生の大きな出来事を乗り越えたあとでもあったことから、帰国準備とコミュニティ訪問のためのエジプト行きを決意しました。ところが出発前、日本の事務局の方から衝撃の報告が――「イーマンは9歳年上の男性と結婚したようです」。“17歳の少女”のために、かわいい学用品をお土産に選んでいた私は大ショック。手紙に「ちゃんと学校に行ってね」「本を好きになってね」などと書き続けたその思いは、主婦となった彼女にはもう届かないのでしょうか……。

それでもコミュニティ訪問当日は、エジプト伝統の結婚祝いのお菓子を用意し、社宅まで迎えに来てくれたスタッフとともに、ベヘイラの地域事務所へ。するとここでふたつめの衝撃報告――「イーマンは1月1日にお母さんになったんですよ」。10代の結婚、そして出産。エジプトの地方社会の現実を目の当たりにした思いでした。

ベヘイラの事務所を出て、プランが運営する非公式学級を見学したあとは、いよいよイーマンとの対面です。向かった先は彼女の実家で、イーマンと娘のアシュナット、お母さん、そして親戚のおばさんたちが出迎えてくれましたが、お父さんやご主人は仕事のため不在でした。お母さんの手料理などを食べながら、勉強や日本のことなどを話していると、突然イーマンがこんなことを言い出しました――「今度はアシュナットのスポンサーになってくれませんか？」。

「そんなことできるんですか？」と私が聞くと、「検討してみます」とプランのスタッフ。こうして私は思いがけず、イーマンとアシュナットとの交流を続けられることになりました。次はできれば2年後くらいに、エジプトの“娘”と“孫娘”にふたたび会いに行きたいと考えています。

旅のスケジュール

2017年	2月18日（土）	羽田空港（深夜発）～ドバイ 経由～カイロ（夕方着）
	2月19日（日）～3月19日（日）	夫の帰国準備など
	3月20日（月）	カイロ～ベヘイラ（車で約3時間）～コミュニティ訪問～カイロ
	3月21日（金）～4月10日（月）	帰国準備など
	4月11日（火）～4月12日（水）	カイロ（夜発）～ドーハ経由～成田空港（夕方着）

● コミュニティ訪問は、
出発日の 8 週間前までにお申し込みください。
手続き方法などの詳細は、ウェブサイトをご覧ください。
http://www.plan-international.jp/supporter/visit



イーマンの実家前で
記念撮影



ベヘイラ地域事務所のスタッフの情熱的な仕事ぶりにも感銘を受けました

PLAN NEWS
2017 AUTUMN NO.106

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
〒 154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋 2-11-22 サンタワーズセンタービル 10F
TEL：03-5481-6100　FAX：03-5481-6200
www.plan-international.jp

表紙写真：ウガンダの女の子